

問1 10世紀初頭の周防国（現在の山口県）における人口統計によると、働き手となる17歳から65歳の層において、男性66人に対し女性が136人と、自然な状態ではありえないほど男女の数に極端な偏りが見られます。このような戸籍の偽装が行われた理由として、当時の税制度の仕組みから説明したものと最も適切なものを選びなさい。（2024年 山口公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 男性のみに課せられていた調や庸といった重い税負担を逃れるため、戸籍上で性別を偽ったから。 | 2. 女性にのみ公地公民制に基づく口分田が与えられていたため、土地を得ようと性別を偽ったから。 | 3. 収穫した稲の一部を納める「租」が男性のみに課せられていたため、その負担を回避しようとしたから。 | 4. 防人などの軍役が女性にのみ課せられていたため、男性が女性の身代わりになろうとしたから。 |
|---|---|--|--|

問2 藤原氏や平氏の家系を記した系図を確認すると、藤原道長や平清盛が、自分の娘と天皇の間に生まれた皇子を次々と即位させている様子がうかがえます。このように、天皇の母方の親類として政治に影響力を及ぼす立場を指す言葉を選びなさい。（2017年 大分県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 外戚 | 2. 守護 | 3. 執権 | 4. 寄進 |
|-------|-------|-------|-------|

問3 11世紀前半の藤原道長は、自身の娘を一条天皇や三条天皇などの后とし、その子供を次の天皇に即位させることで、複数の天皇の祖父という立場を築きました。このように、藤原氏が権力を維持・拡大するために利用した「天皇の母方の親戚」という血縁関係を何といいますか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|--------|--------|
| 1. 外戚 | 2. 門閥 | 3. 氏長者 | 4. 院近臣 |
|-------|-------|--------|--------|

問4 平治の乱で源氏の源義朝らを破り、武士の政権を確立した平清盛が行った経済政策について述べた文として、背景や目的が正しく説明されているものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 宋との貿易を盛んにするため、瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊という港を改築して経済基盤を固めた。 | 2. 明との正式な貿易を行うため、勘合と呼ばれる札を持たせた船を派遣し、倭寇との区別を明確にした。 | 3. 東南アジアにまで商圏を広げるため、公印が押された渡航証を商人に与え、朱印船による貿易を保護した。 | 4. ヨーロッパの文化や技術を取り入れるため、ポルトガルやスペインの船を長崎などの港に招いて南蛮貿易を行った。 |
|---|---|---|---|

問5 平安時代中期、藤原道長や頼通の時代に全盛期を迎えた「摂関政治」において、藤原氏が長期間にわたって政治の実権を握り続けることができた手法として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、その外祖父として政治を行う手法 | 2. 地方の有力な武士団を直属の軍隊として組織し、圧倒的な武力によって朝廷内の反対勢力を排除する手法 | 3. 墾田永年私財法を背景に広大な荘園を集積し、天皇から経済的に完全に独立した政府を樹立する手法 | 4. 遣唐使の廃止によって外国の影響を排除し、藤原氏独自の法律を定めて朝廷の官僚機構を支配する手法 |
|---|--|--|---|

問6 天皇や貴族、僧侶の間で茶を飲む習慣が見られた平安時代の社会背景において、この時期の出来事として述べた説明として適切なものを選びなさい。（2021年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 平将門による大規模な反乱が発生し、武士の存在感が地方で高まった。 | 2. 北条泰時が御成敗式目を制定し、武士のための法整備が進んだ。 | 3. 聖武天皇が国分寺建立の詔を出し、奈良の都を中心に仏教文化が栄えた。 | 4. 足利義満が日明貿易を始め、茶の湯などの東山文化が発展した。 |
|-------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|

問7 平安時代初期に最澄や空海が開いた新しい仏教は、奈良時代の仏教が政治と深く結びついていたことへの反省もあり、都から離れた山の中に寺院を建立した点に特徴があります。最澄が比叡山に延暦寺を建立し、そこで行った活動の説明として最も適切なものはどれですか。（2014年 沖縄公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 人里離れた険しい自然環境の中で、僧侶が学問や厳しい修行に専念する場とした | 2. 都市の有力な貴族たちのために、現世利益を祈禱する儀式を専門に行った | 3. 全国に国分寺や国分尼寺を建立するための、行政的な拠点として活用した | 4. 武士の精神修養を目的として、座禅を組み精神を統一する修行を重視した |
|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|

問8 平安時代末期の政治状況を説明する記述において、平清盛が律令制における最高官職である太政大臣に就任したことが挙げられています。この出来事が当時の政治に与えた影響や背景として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 三重公立入試 類似）

- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 一族で朝廷の主要な官職を独占し、武士による政治の基盤を築いた。 | 2. 藤原氏による摂関政治を継続させるために、天皇を補佐する役割を担った。 | 3. 源頼朝の台頭を抑えるために、幕府の組織を朝廷内に作り上げた。 | 4. 律令制を廃止して、新しい土地支配の仕組みを全国に広めた。 |
|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 男性のみに課せられていた調や庸といった重い税負担を逃れるため、戸籍上で性別を偽ったから。	律令制下の税負担において、収穫した稲を納める「租」は男女共通の負担でしたが、特産物を納める「調」や、労役の代わりに布を納める「庸」は、主に成人男性に対して課せられる非常に重い負担でした。このため、負担を回避しようと、戸籍上で男性を女性として登録する「偽装」が横行しました。このような状況は、政府が戸籍に基づいて「人」に税を課す仕組みを維持することを困難にし、後の時代に「土地」を基準として課税する仕組みへと変化していく要因となりました。
問2	答え 1 外戚	天皇の母方の親戚は「外戚（がいせき）」と呼ばれます。平安時代の貴族政治において、天皇が幼少のうちは「摂政」、成人してからは「関白」として政治を補佐しましたが、これらの役職を独占し続けるためには、常に天皇の外戚である必要がありました。平清盛も、娘の徳子を高倉天皇に嫁がせ、その間に生まれた安徳天皇を即位させることで、外戚として絶大な権力を手にしました。
問3	答え 1 外戚	藤原氏は、自分の娘が産んだ皇子を天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として強い発言権を持ちました。この「母方の親戚」という関係を外戚（がいせき）と呼びます。道長はこの外戚関係を背景に、摂政などの要職を独占し、藤原氏の全盛期を築き上げました。
問4	答え 1 宋との貿易を盛んにするため、瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊という港を築築して経済基盤を固めた。	平清盛は平氏の経済力を高めるために日宋貿易に注目しました。宋から輸入された宋銭は国内に流通し、後の貨幣経済の発展にも影響を与えました。この貿易を支えるため、瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊（現在の神戸市）を貿易港として完成させました。他の選択肢は室町時代の勘合貿易、安土桃山時代の朱印船貿易、南蛮貿易に関する記述です。
問5	答え 1 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、その外祖父として政治を行う手法	藤原氏は、一族の娘を天皇の後（きさき）として送り込み、その間に生まれた皇子を次の天皇に即位させることで、天皇の母方の祖父である「外祖父（がいそふ）」という地位を確立しました。この血縁関係を背景に、天皇が幼少の間は「摂政」、成人してからは「関白」という官職に就くことで、政治の決定権を独占しました。武力や独自の法律ではなく、天皇との個人的なつながりが権力の源泉であったことが特徴です。
問6	答え 1 平将門による大規模な反乱が発生し、武士の存在感が地方で高まった。	平安時代初期、唐から伝えられた茶は、天皇や貴族、僧侶などの限られた層で愛好されていました。この時期の社会では、一方で地方の政治が乱れ、自衛のために武装した武士たちが勢力を伸ばしていました。その象徴的な出来事が、関東で起こった平将門の乱です。他の選択肢にある御成敗式目は鎌倉時代、東大寺や国分寺は奈良時代、日明貿易は室町時代の出来事です。
問7	答え 1 人里離れた険しい自然環境の中で、僧侶が学問や厳しい修行に専念する場とした	奈良時代の仏教（南都六宗）が政治に介入しすぎた弊害を避けるため、平安初期の最澄（天台宗）や空海（真言宗）は、都の喧騒を離れた山岳地帯に寺院を構えました。これを山岳仏教と呼びます。最澄は比叡山で国家を支える人材（「国宝」）を育成するため、戒律を重視した厳しい修行と学問を僧侶に課しました。
問8	答え 1 一族で朝廷の主要な官職を独占し、武士による政治の基盤を築いた。	平清盛は太政大臣という律令制の頂点に立つことで、自分たちの一族（平氏）で朝廷の多くの官職を占める状況を作り出しました。これにより、武家としての武力と朝廷内での政治力を併せ持つ「平氏政権」を確立させ、のちの鎌倉幕府などへと続く武家社会への道を開きました。